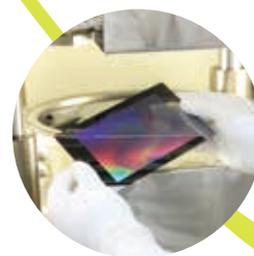


産学官の連携による創造的研究開発拠点

新川崎・創造のもり



“産業集積拠点”川崎市～連携と先端技術開発

川崎市は、首都圏の中心部に位置し、優れた技術を持つ中小企業が集積するとともに、京浜工業地帯の中核を担う、日本有数の製造業集積都市です。さらに、都市型工業地域の特色を活かした試作開発・商品開発を担う知識集約型・高付加価値型の産業構造への転換も進み、約400の研究開発機関が集積する研究開発都市でもあります。

キヤノン(株)玉川事業所

マイコンシティ

エレクトロニクス・情報・通信関連産業等の集積を目指した国際的な研究開発拠点

明治大学地域産学連携研究センター

明治大学の技術シーズ・知的資源を有効活用し、新技術・新事業の創出、地域中小企業の育成等を行う地域連携の交流促進拠点

KSP (かながわサイエンスパーク)

日本初の都市型サイエンスパークであり、規模は日本最大級(敷地面積約55,000㎡、就業者数約4,500名)

THINK (テクノハブイノベーション川崎)

JFEグループの既存研究開発施設を活用して、新事業の創出、新分野への進出支援や産学連携共同研究の実現を目指すサイエンスパーク

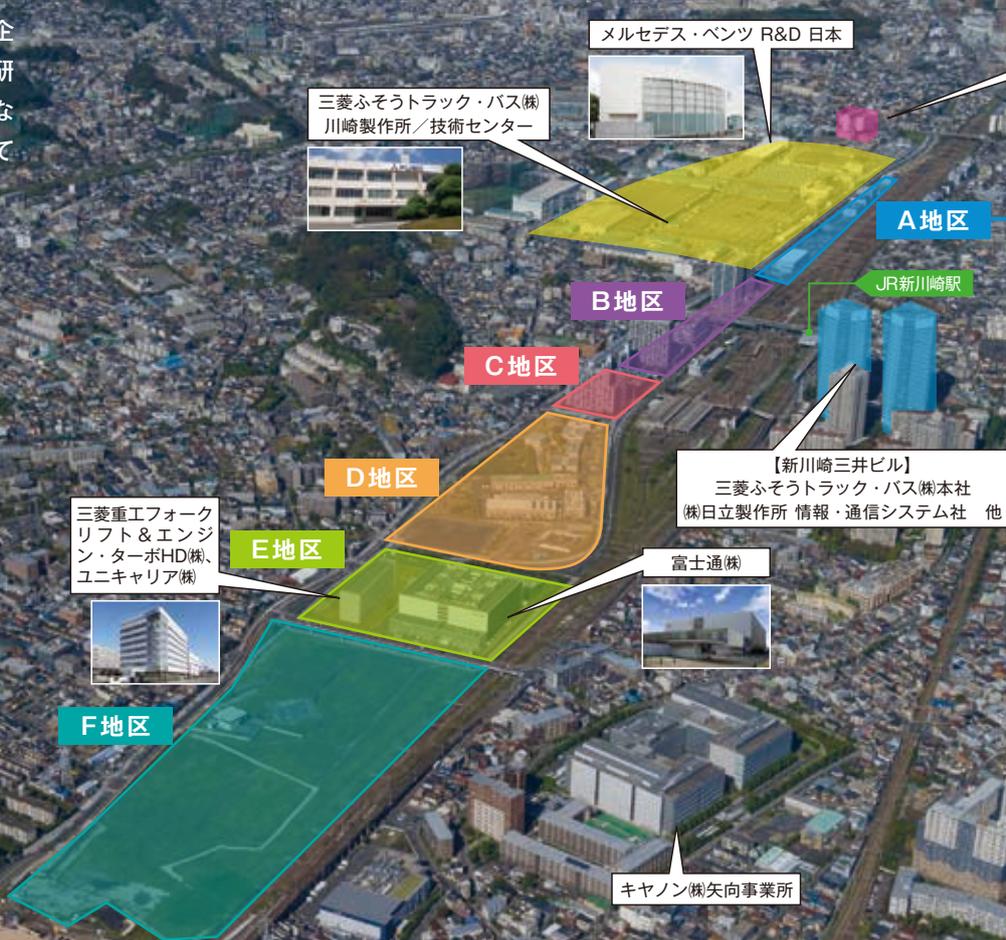
横浜市

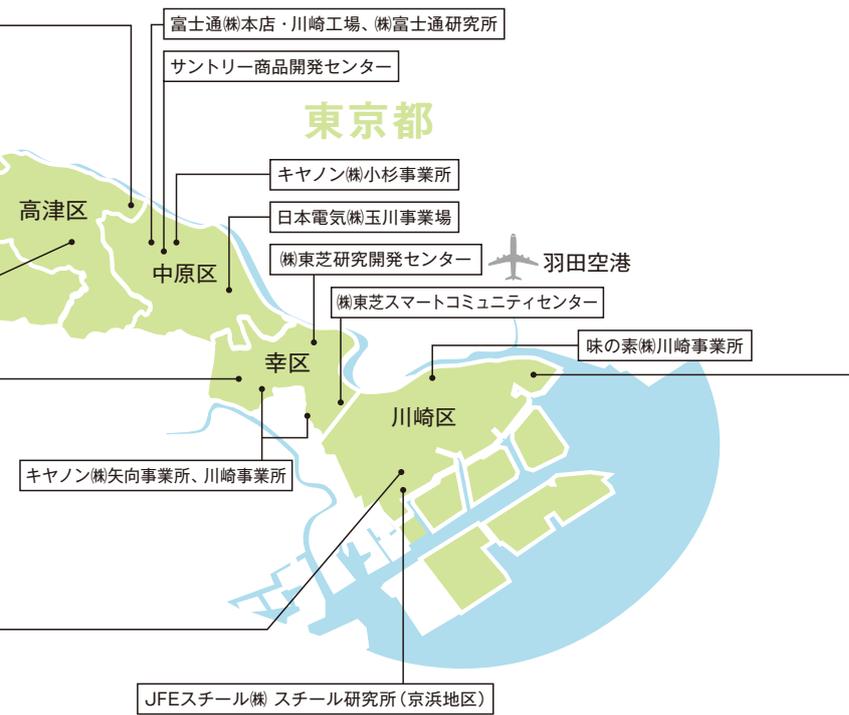
新川崎地区

産学官連携による新産業の創出を目指す先端技術の集積拠点 / 2013年10月「京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区」に追加指定

新川崎地区は、D地区(創造のもり)への企業・大学の進出のほか、新川崎A地区に研究開発型のものづくり企業が進出するなど、1万8,000人余の従業者が集積していると推計されています。

A地区 4.3ha	高度な技術力をもつ製造業の集積ゾーン
B地区 3.9ha	商業・業務、都市型居住ゾーン
C地区 2.0ha	都市型居住ゾーン
D地区 8.1ha	研究開発・交流ゾーン・新川崎・創造のもり
E地区 4.8ha	産業創出・育成ゾーン
F地区 10.1ha	都市型居住等の複合ゾーン・小学校等





殿町地区キングスカイフロント

羽田空港の対岸に位置する殿町3丁目を中心としたライフサイエンス分野の研究開発拠点／2011年12月「京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区」に指定
2014年5月「東京圏国家戦略特区」に指定



川崎生命科学・環境研究センター (LISE(ライズ))



ナノ医療イノベーションセンター (ICONM)



実中研 再生医療・新薬開発センター



ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 東京サイエンスセンター

- ライフイノベーションセンター (LIO) 再生・細胞医療分野の研究開発から事業化に向けた取組みを推進
- 国立医薬品食品衛生研究所 医薬品、食品等の品質、安全性ならびに有効性の評価に関する試験・研究

殿町国際戦略拠点「キングスカイフロント」及び新川崎地区の両拠点の特徴・強みを活かし、特区内のさらなる連携を強化していきます。

A地区立地企業



新川崎地区ネットワーク協議会



新川崎地区ネットワーク協議会の3つの重点活動領域

産学連携・産産連携の推進

会員の操業環境等の向上

市民との交流の推進



協議会の開催



会員企業見学会



会員イベント協力



イノベーションワークショップ研修会

新川崎地区の産業基盤を活かして、2012年7月に新川崎地区内の企業・大学を中心とした産学連携、産産連携を目指す組織「新川崎地区ネットワーク協議会」が発足。産学連携事業等に活発に取り組んでいます。

新川崎・創造のもりの概要

新川崎・創造のもりは、産学官の連携による新しい科学・技術や産業を創造する研究開発拠点の形成と、次世代を担う子どもたちが科学・技術への夢を育む場づくりを目指し、段階的な施設整備を推進しています。

これまでの経緯

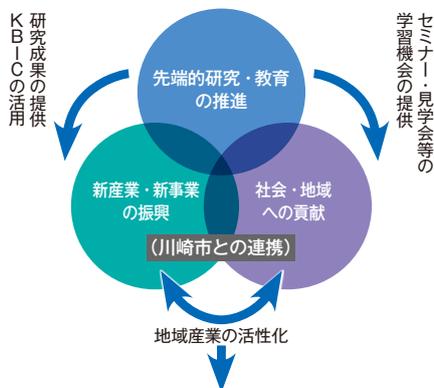
1999年 2月	「新川崎・創造のもり計画」の策定
1999年 2月	「新川崎・創造のもり計画」の推進への協力に関する川崎市と慶應義塾の協定締結
2000年 7月	【第1期事業】 慶應義塾大学の先導的研究施設 「K ² タウンキャンパス」の開設
2003年 1月	【第2期事業】 ベンチャービジネス創出拠点 「かわさき新産業創造センター (KBIC)」の開設
2005年 1月	新川崎地区・地区計画の策定
2008年 9月	新川崎・創造のもり第3期事業用地 土地利用方針の策定
2009年 1月	「4大学ナノ・マイクロファブリケーションコンソーシアムと川崎市との連携協力に関する基本合意」締結 4大学コンソーシアムの研究成果を地域産業の活性化に生かし、先端科学技術による世界への貢献を目指した連携協力
2009年11月	川崎市と慶應義塾との連携・協力に関する基本協定の締結
2010年10月	新川崎・創造のもり第3期事業地区 産学官共同研究施設整備基本計画の策定
2012年 1月	東京大学、日本アイ・ピー・エム株式会社、川崎市による「東京大学社会連携講座の実施に関する基本協定」の締結 「省エネルギーを目指した、次世代ナノ・マイクロデバイスとシステム」をテーマとした研究を実施
2012年 4月	【第3期第1段階事業】 ナノ・マイクロ産学官共同研究施設「NANOBIC」の開設
2013年10月	「京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区」に新川崎A,D,E地区が追加指定
2014年 5月	【第3期第2段階事業】 産学交流・研究開発施設整備基本計画策定
2017年 2月	産学交流・研究開発施設 着工

第1期事業 K²タウンキャンパス

慶應義塾大学の先導的研究施設
最先端の研究を地域産業の活性化につなげることを目的として、慶應義塾と川崎市の連携・協力のもと、2000年に開設

※K²(ケイスクエア)はKeioのK、KawasakiのKの2乗の意
管理・運営：(一財)川崎市まちづくり公社

- 主に理工学系の研究室が入居し、プロジェクト等を展開(14研究室/2教育プログラム)
- 慶應義塾大学の約400名の研究者や大学院生等が利用
- 企業向けのK²オープンセミナー、ビジネス交流会や研究者と技術について議論する少人数制のK²テクノサロンを実施



フォトニクスポリマープロジェクト



ハプティクスプロジェクト



K²オープンセミナー・ビジネス交流会



ベンチャー
かわさき
「KBIC
2003
管理・運営」

起業家

インキュベーションマネージャー
技術コーディネーター

- | | |
|--|---|
| 創業支援
立ち上げ時の総合サポート/創業資金等の獲得支援 | 産学連携
大学等の技術シーズ提供/産学共同研究開発の支援 |
| 販路開拓
顧客開拓等コンサルティング/市内企業とのマッチング支援 | 技術支援
技術・特許/コンサルティングの派遣/技術支援機関・助成制度の紹介 |
| 情報発信・交流
インターネット等による情報発信支援/異業種交流会 | 資金調達支援
資金計画のコンサルティング/VC・金融機関の紹介 |

川崎市

建物	研究棟4棟 (K棟、E棟、I棟、O棟)、厚生棟1棟 (K ² ハウス)
構造	鉄骨造2階建
敷地面積	約 16,405㎡
建築面積	約 3,062㎡
延床面積	約 6,087㎡



第2期事業 KBIC

一支援のインキュベーション施設
新産業創造センター
(ケービック)
年に開設

(公財)川崎市産業振興財団、三井物産フォーサイ
ト(株)共同事業体【指定管理施設】



CADセミナー



KBIC企業交流イベント

建物	本館、別棟
構造	鉄骨造2階建
建築面積	本館 約1,854㎡、別棟 約113㎡
延床面積	本館 約3,428㎡、別棟 約213㎡
主な諸室	スモールオフィス(各室15㎡)、ラボ(各室30~200㎡)、打合せ・交流コーナー(106㎡)、会議室(50㎡)、アメニティコーナー(78㎡)、ものづくり工房(100㎡)、CAD/CAM研修室(47㎡)等

第3期 第1段階事業 NANOBIC

ナノ・マイクロ産学官共同研究施設
「NANOBIC(ナノビック)」
かわさき新産業創造センター新館として、2012
年に開設

管理・運営:(公財)川崎市産業振興財団、三井物産フォーサイ
ト(株)共同事業体【指定管理施設】



- 環境・ライフサイエンス等様々な分野に应用が期待されるナノ・マイクロ技術の産学官共同研究施設
- 大型クリーンルーム(750㎡)を備え、「加工~試作~計測~評価」の一連の作業が可能
- 川崎市と4大学(慶應、早稲田、東工大、東大)ナノ・マイクロファブリケーションコンソーシアムとの連携協力のもと、4大学が有する最先端の研究機器を企業等へ利用開放
- 4大学コンソーシアム、日本IBM等のナノ・マイクロ技術に関する世界最先端の研究機関やナノテクベンチャー企業等が集積

※ナノ・マイクロとは…ナノ(10億分の1)メートル、マイクロ(100万分の1)メートルといった「超微細な領域を表す単位」です。



クリーンルーム クラス100(約175㎡)



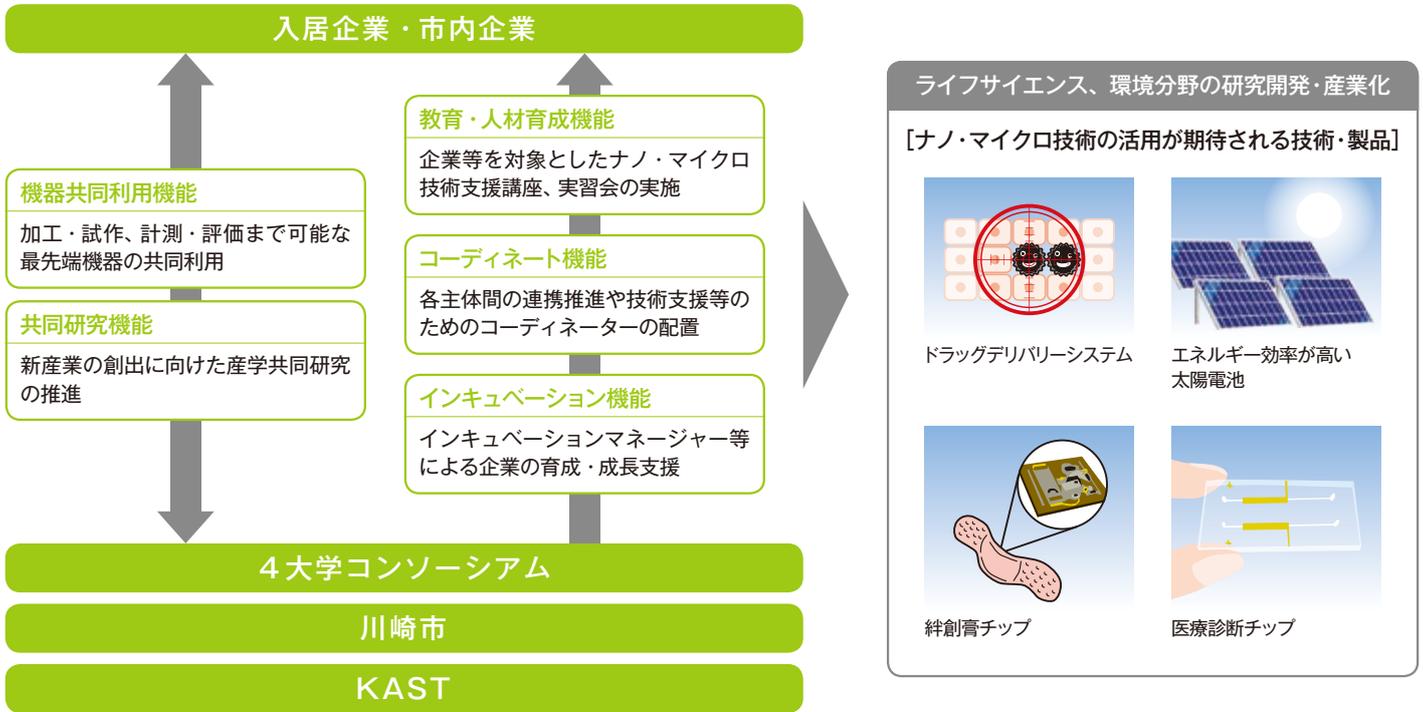
クリーンルーム クラス10000(約575㎡)

建物	研究棟、クリーンルーム棟
構造	鉄骨鉄筋コンクリート、一部鉄筋コンクリート造2階建
建築面積	約3,627㎡ [研究棟 約1,042㎡、クリーンルーム棟 約2,425㎡]
延床面積	約4,817㎡ [研究棟 約1,978㎡、クリーンルーム棟 約2,839㎡]
主な諸室	ラボ(各室50㎡)、クリーンルーム(750㎡・一部クラス100)、ピジター室2室(各室25㎡)、会議室(100㎡)、交流コーナー、アメニティコーナー等

ナノ・マイクロ技術を核とした産学連携支援と

ナノ・マイクロ技術を活用した研究開発をトータルで支援

2012年にオープンしたNANO B I Cでは、インキュベーション事業の他、市内中小企業等を対象としたナノ・マイクロ技術支援講座の開催、4大学が保有する最先端の機器を企業等に貸し出す機器共同利用事業を行うなど、市内事業者のものづくり技術の高度化に向けて、トータルで支援を行っています。



NANO B I C オープンラボ — 4大学コンソーシアム研究機器の利用開放 —

NANO B I Cでは、4大学コンソーシアムの保有する最先端のナノテク研究機器を企業・大学に利用開放を行っています。

研究機器利用に関するご相談、4大学コンソーシアムのメンバー大学の研究者との共同研究に関するご相談は随時受け付けています。また、4大学の研究者がNANO B I Cの研究機器の利用方法をわかりやすく解説し、実際に操作まで行う初級者向けの実習会「ナノファブスクエア」も開催しています。

研究機器のラインナップや仕様、実習会等のご案内は「NANO B I C オープンラボホームページ」にてご案内しています。

<http://open-labo.skr.jp/>



NANO B I C クリーンルーム内先端研究機器







研究機器実習会「ナノファブスクエア」の開催

創造のもりで展開されている活動

ナノテクセミナー・ナノ茶論(サロン)

「ナノテクセミナー」の定期開催、ナノ・マイクロ技術を活用したアプリケーションの開発や業界の最新動向についてディスカッションする少人数制のサイエンスカフェ「ナノ茶論」の毎月開催など、技術者・研究者の交流機会を多数設けています。



科学とあそぶ幸せな一日

創造のもりで毎年秋に開催される子ども向けの科学体験イベントです。地域の企業・大学・団体の協力により、子どもたちの科学の夢を育む実験教室や工作教室、展示などが行われ、当日は、多くの家族連れで賑わいます。





イノベーションの創出に向けた新たな施設「産学交流・研究開発施設」の整備

新川崎・創造のもりの第3期第2段階事業（次期事業）として、2018年の供用開始を目指し、新たに「産学交流・研究開発施設」の整備を予定しています。

新たな施設は、創造のもり地区の企業・大学や周辺の企業等が集い、交流する結節点としての役割を果たし、これまで多数創出してきた“イノベーション”（科学的・工学的な発見）をさらに発展させ、我が国経済をけん引する新たな“イノベーション”の創出を目指します。



「産学交流・研究開発施設」予定地

産学交流・研究開発施設が担う機能

Incubation

研究開発型ものづくり企業を中心にベンチャー企業向けのオフィススペース、ラボスペースを大幅拡張

Integration

創造のもりエリアに入居する企業・大学を中心とした交流・連携を支援
最先端のものづくりや多様な研究に対応した環境を完備

Connection

入居企業向けに充実した共用部を設けることにより、大規模会議等の開催や日常の研究者同士の交流を支援

創造のもりオープンイノベーションによる研究開発の推進

新川崎・創造のもりでの研究開発活動は、企業・大学が集い、交流する世界的な研究開発拠点を参考とし、研究開発のオープン化を進めます。また、「新川崎地区ネットワーク協議会」や「殿町地区キングスカイフロント」との連携により、ライフサイエンス分野等での革新的な技術・製品、産業の創出を図るなど、「オープンイノベーション」の実現を目指します。

幅広い産業分野における産学、産産のコラボレーションを創出

オープンイノベーションによる最先端の研究開発を支援

基礎となる共通技術での
共同研究



応用技術では競争による
独自開発



オープンイノベーション推進による新たな技術・産業の創出

産学交流・研究開発施設の整備

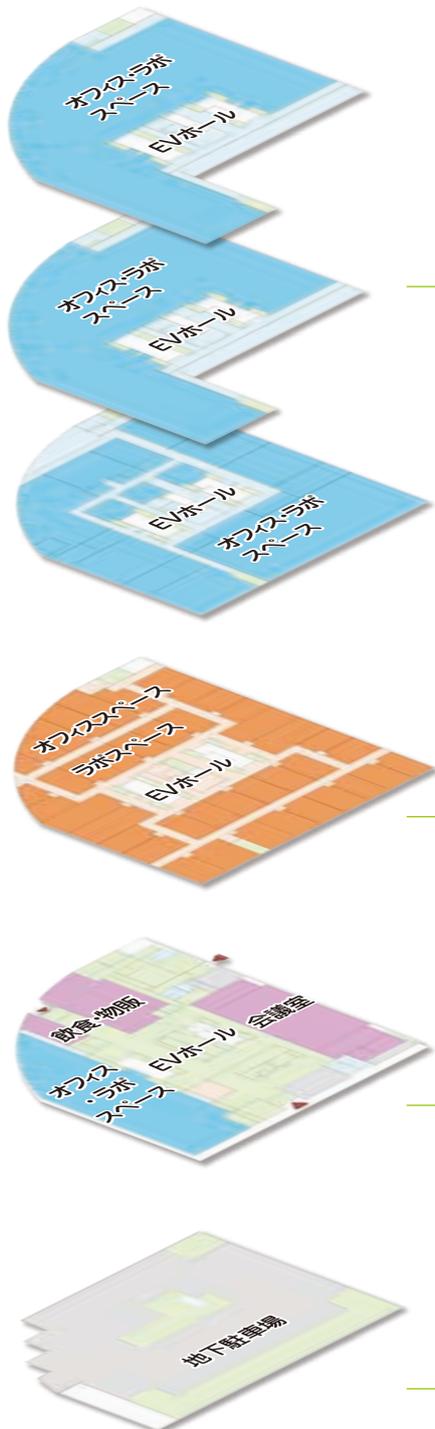
「産学交流・研究開発施設」の仕様



構造：鉄骨造、地下1階・地上5階／建築面積：5,322.51㎡
延床面積：26,694.01㎡／最高高さ：27.3m

「産学交流・研究開発施設」は、オープンイノベーションの環境で、産学、産産連携による新しいプロジェクトを推進する場を提供します。

1階部分には、カンファレンス機能の他、飲食・物販等のアメニティ機能を導入し、2階部分には、ベンチャー企業向けのインキュベーションスペース、3～5階部分には、中長期のプロジェクトが入居可能な大規模スペースを整備します。



3～5階 イノベーションフロア ※1階東側の一部を含む

■【大和ハウス運営】 (民間賃貸:3階約3,700㎡、4階約3,000㎡、5階約3,000㎡)

- 延べ約11,000㎡
- 長期間にわたるプロジェクトの入居が可能
- フロア貸しのほか分割等の多様なニーズに対応可
- 入居企業の用途に応じた室内仕上げが可能

2階 インキュベーションフロア

■【川崎市運営】 (インキュベーション約3,500㎡)

- 1室あたり40～130㎡程度(延べ約3,500㎡)
- 積載荷重10,000N/㎡・OAフロア・耐薬品性長尺塩ビシート仕上のラボスペースは約1,000㎡
- 積載荷重5,000N/㎡・OAフロア・帯電防止仕様タイルカーペット仕上のオフィススペースは約2,500㎡
- ベンチャー企業の研究開発スペースとして5年間の利用が可能
- 入居者には、インキュベーションマネージャーによる経営・販路拡大等の支援を提供
- 利用料は月額4,000円/㎡(共益費込)を予定

1階 オープンエリア(共用部)

■会議室、交流スペース、食堂、物販、オフィス・ラボ(民間賃貸 1,200㎡) 駐車場・駐輪場:自動車32台、自転車64台、自動二輪10台

- 会議室は隣接するホワイエを活用し、300人規模の会議・レセプション等も開催可能
- 交流スペースは給湯スペース・自動販売機等を備え、各フロアに設置
- テラス席を設けた開放的な飲食スペースは1日100食以上の提供が可能

B1階 地下駐車場

■駐車場:自動車66台(入居者専用)



創造のよりの研究開発を支えるアメニティ機能が充実

飲食・カフェスペース

研究者の日常的な飲食を提供し、カンファレンス後の交流会も可能なレストラン・カフェ(100席程度)
開放感のあるテラス席も整備



© CAFE; HAUS

多目的会議室

スライドウォールで間仕切り可能な多目的会議室(最大8分割)
少人数のミーティングから300人規模のシンポジウムまでフレキシブルに対応



ランニングステーション

研究者のリフレッシュ・健康維持をサポートするランニングステーションを設置



※写真はイメージです

今後のスケジュール(予定)

	2017			2018				2019
	4-6	7-9	9-12	1-3	4-6	7-9	9-12	1-3
建設工事	施設建設工事							●竣工 供用開始
入居者募集	随時募集・相談							公募・審査(2~3か月ごとに実施予定)
指定管理者募集		公募・審査	●選定	管理・運営				

「産学交流・研究開発施設」の開発スキーム

「産学交流・研究開発施設」は、官民連携パートナーシップ(PPP)による事業で、川崎市及び大和ハウスグループが連携・協力のもと、事業を推進しています。

